令和4年度 上武大学 大学院 経営管理研究科 シラバス

講義番号	授業科目名	財務会計演習Ⅱ		担当教員	白山 真一		
	英語授業科目名	Financial accounting seminarⅡ		単 位	4	学 期	通年
対象年次	2年次	クラス指定	なし	他との関連	財務会計特論 A,B		
履修条件	財務会計演習Ⅰを履修していること。						
テーマ・副題	会計理論及び会計制度・実務の現状分析,課題抽出,対応の方向性の提示						
授業の教育目的・目標	会計理論及び会計制度・実務に関する修士論文を完成させることを教育目標とする。						
授業の理解度の到達目標	研究論文としての形式要件を満たしたうえで,鋭い「問題意識」に基づく,質の高い修士論文を完成させることを到達目標とする。						
授業キーワード	国際財務報告基準 (IFRS) ,国際公会計基準 (IPSAS) ,企業会計基準,政府・非営利会計基準 等						
授業の内容	企業会計の制度研究,理論・概念研究,実証研究など,各自の研究論文テーマや研究方法論に応じた授業内容とする。なお,研究テーマは企業会計に限定せず,政府会計,地方自治体会計,非営利会計などの領域を選択してもよい。						
授業の方法	各回とも修士論文の作成過程等を報告してもらい,論文完成に向けた指導を行う。						
授業展開	<p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (今後の修士論文の作成スケジュールの確認など) 2. 修士論文のテーマ及び問題意識の討議① 3. 修士論文のテーマ及び問題意識の討議② 4. 修士論文のテーマ及び問題意識の討議③ 5. 修士論文の構成内容及び構成ロジック体系の討議① 6. 修士論文の構成内容及び構成ロジック体系の討議② 7. 修士論文の構成内容及び構成ロジック体系の討議③ 8. 修士論文の経過報告① 9. 修士論文の経過報告② 10. 修士論文の経過報告③ 11. 修士論文の経過報告④ 12. 修士論文の経過報告⑤ 13. 修士論文の経過報告⑥ 14. 中間発表 15. 前期のまとめ (後期へ向けた修士論文作成の詳細スケジュールの確認など) <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 修士論文の経過報告⑦ 17. 修士論文の経過報告⑧ 18. 修士論文の中間発表会の準備① 19. 修士論文の中間発表会の準備② 20. 修士論文の経過報告⑨ 21. 修士論文の経過報告⑩ 22. 修士論文の第1稿の発表と討議① 23. 修士論文の第1稿の発表と討議② 24. 修士論文の第1稿の発表と討議③ 25. 修士論文の第2稿の発表と討議① 26. 修士論文の第2稿の発表と討議② 27. 修士論文の第2稿の発表と討議③ 28. 修士論文の最終稿の発表と討議① 29. 修士論文の最終稿の発表と討議② 30. 修士論文の最終稿の発表と討議③ 						
成績評価方法	論文の完成内容 (60%) を中心に,論点の整理や論文の発表と討議状況 (40%) などを総合して評価する。なお,出席状況が 60%未満である場合には,成績評価が不合格になる場合がある。						

成績評価基準	成績は総合点で 80 点以上を A,79～70 点が B,69～60 点が C,それ以下を D とする。			
テキスト	なし			
参考図書	「企業会計」「会計・監査ジャーナル」「経営財務」「税経通信」「会計」などの会計専門紙,関連図書			
準備学習に必要な時間,又はそれに準じる程度の具体的な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自の研究論文テーマに対して,発表内容のレジюмеや発表原稿の準備を十分にしてくること(最低でも 3～4 時間程度は必要)。 ● 研究論文のテーマを検討する際には,常に「問題意識」を明確にしたうえで,論文構成の「ロジック」を常に明確にするように心掛けること。 			
学生へのメッセージ	論文テーマの決定,先行研究及び必要資料のサーベイ,問題意識の明確化,構成案(目次とそのロジック体系)の作成を早い段階で手掛けることが重要となります。担当講師とは,積極的に意見交換をするようにしてください。			
オフィスワーカー	主に以下に示したメールにより質問等を受け付けることにする。			
連絡先	電話番号	0274-42-2828 (内線: 407)	メールアドレス:	shirayama@jobu.ac.jp
人数制限	特に定めない。			